

第 26 回ライフサポート学会フロンティア講演会を開催して

実行委員長：花房 昭彦

芝浦工業大学 システム理工学部 生命科学科

第 26 回ライフサポート学会 フロンティア講演会を 2017 年 3 月 10 日(金), 11 日(土)に芝浦工業大学豊洲キャンパスで、ライフサポート学会の主催、日本生体医工学会関東支部の共催、芝浦工業大学脳科学ライフサポートテクノロジー寄付研究センターの協賛で開催致しました。二日ともに好天に助けられ、195 名(学生 132 名)の方にご参加いただきました。日本全国から来ていただいた参加者の皆様、座長の先生方、学生の参加をご指導くださった多くの先生方に心より感謝申し上げます。

本年度は新たに、同時査読によるライフサポート学会フロンティア講演会論文賞を設けさせていただきました。フロンティア講演会での講演内容を事前に、ライフサポート学会誌に投稿していただき、フロンティア講演会までに掲載決定となった場合にフロンティア講演会論文賞として表彰させていただくものです。アナウンスが遅かったにもかかわらず、4 件の応募があり、以下の論文がライフサポート学会フロンティア講演会論文賞を受賞しました。おめでとうございます。次年度もこの試みは続けていく予定です。

吉岡陸, 中島雄太, 中西義孝(熊本大学大学院):「高分子多糖類水溶液が生体関節潤滑に及ぼす影響」

演題数は、奨励賞受賞者発表 33 件、一般演題 91 件、オーガナイズドセッション演題 1 件、特別講演 1 件、シンポジウム 1 件でした。奨励賞の講演会場とそれ以外のセッション 2 会場の計 3 会場で行っていただきました。一般演題は生命支援(4 件)、生体計測(24 件)、治療支援(15 件)、人工臓器(16 件)、生活支援(16 件)、QOL 支援(10 件)、計測・制御(6 件)の各セッションで実施しましたが、複数のセッションから成る場合は、なるべく両日に分け、また各大学の講演が分散するように配慮させていただきました。

本年の新しい試みとしては、学生会主催の藤江正克先生(早稲田大学)による特別講演「企業で 30 年間、大学で 15 年間、ロボットの研究開発に取り組んで」のあと、学生だけでなく一般会員も交えての交流会を開催したことです。当初予定していたより参加者希望者が 2 倍になり、食事などでご不便をおかけしたかもしれません。学生同士の交流だけでなく、先生方との交流も行えた点は良かったと思います。この特別講演と交流会の詳細に関しては、学生会の活動報告をご参照下さい。

また初日には生体流体力学研究会 OS の企画として、早稲田大学の岩崎清隆先生による講演「岩崎清隆先生に学ぶ生体材料評価」を実施していただきました。補助人工心臓の血栓形成評価、ステント、僧帽弁膜、人工靭帯の強度評価を、実験装置による計測評価と計算機上の解析評価を統合して行われている事例が紹介されました。これら評価手法の確立により、臨床試験期間を短縮し、医療機器の実用化を早めることが期待されるとの指摘がされました。

二日目のシンポジウムでは、芝浦工業大学生命科学科の花房と渡邊が、「芝浦工業大学のライフサポート教育・研究について」を発表させていただきました。発表では、今回協賛を受けた脳科学ライフテクノロジー寄付研究センター、取り組みを始めている QOL 向上とライフサイエンスコンソーシアム、グローバル化への取り組みとして GTI コンソーシアムの紹介を行いました。次年度で 10 周年を迎える生命科学科の紹介、発表者に係わる研究室の紹介までさせていただきました。まとまりの無い内容になってしまったのではないかと危惧しておりますが、少しでも芝浦工業大学での取り組みの現状をご理解いただければ、幸いです。

学会期間中 A 会場(301 室)の前で工事を実施中で, A 会場の入退室にはご不便おかけし, 申しわけありませんでした. 初日の特別講演と二日目の奨励賞授賞式会場を B 会場に変更させていただきました. 最後になりますが, 本講演会の開催に際し, フロンティア講演会管理委員会の先生方, 学生スタッフの皆様, ライフサポート学会事務局の皆様, 様々な方々のご支援により無事, 講演会を実施することができました. 改めて御礼申し上げます. 次回は, 福長一義先生を実行委員長として杏林大学にて開催されます. 次年度も多数の皆様のご参加をお願い申し上げます.



ライフサポート学会奨励賞授賞式後の記念写真:受賞者と中島選奨部会長, 増澤学会長, 花房実行委員長